



新年の生江園長からのあいさつ

新年明けましておめでとうございます。平成20年の新しい年がスタートしたことに伴い、動物園内の出来事や動物に関する感想をできるだけ多くの人に伝え、少しでも動物園に足を運んでもらえばと思い、かみね動物園のホームページにも新しくこのコーナーを設けることにしました。不定期ながらもなるべく頻繁に更新していけるようにがんばりたいと思いますのでよろしくご愛読お願いいたします。

さて、私は平成19年の7月に人事異動でこの動物園の園長に就任しました。それまでは、一介の事務職として普通に市役所の仕事をしていたのですが、この異動はまさに青天の霹靂でした。市立の動物園ですから当然伝票処理なども市職員の仕事ですが、まさか自分が、それも園長という立場で行くなどとは夢にも思っていませんでした。特に入園料をいただきお客様に満足して帰ってもらえるためにはどうするか、というサービス業としての役割認識に始まり、平成19年度は開園50周年のイベントや姉妹都市であるアメリカ・バーミングハム市の動物園との動物交換事業、国内動物園との情報交換、マスコミ対応など慣れない仕事であったという間の6ヶ月間でした。その他にも市役所での打合せや日々の決裁、職員との話し合いなど、本当はもっと動物に接したり、飼育の仕事を体験したりしなければならないのですがなかなか時間的余裕がありません。



しかし、そんなバタバタした毎日ながらも今は大変充実しております。それはもともと動物が嫌いではなかったことでもあります。動物に関して日々新たな発見があるからだと思えます。

私は小学6年のとき、かみね動物園の第1回サマースクールに参加したのですが、そのとき先代「ミネコ」であるゾウに乗せてもらったのが強烈な印象として記憶に残っています。もちろん、今ゾウに乗せることはしませんが当時は乗れたのです。その時は、高いゾウの背中からの風景に感動したのと「ああ、ゾウは意外におとなしいんだな」という思いがありました。しかし時を隔てて今こうして仕事で赴任し（ああ、なんという因縁）飼育員と獣舎に入ったときのゾウの印象はまったく違っていました。最初の印象は「怖い」という思いでした。特に、目が怖いというのが率直な感想でした。もちろん、今の「ミネコ」と「スズコ」は先代の「ミネコ」と気性も違うのかもしれませんが、客として動物を見るのと仕事で接する違いなのでしょうか。かみね動物園ではゾウを「直接飼育」といって飼育員が直接ゾウに触れ合いながら体の様子を見たり調教したりしています。動物との信頼関係を築くためには有効な飼育方法ですが反面危険と隣り合わせということも言えます。飼育員は毎日この怖い（と、私は思う）目と対峙しながら仕事をしています。

かみね動物園は、入園するとすぐ、草食獣で一番大きなゾウを見られることがひとつのセールスポイントになっています。小さいお子さんは皆ほとんど「うわーっ、ゾウさん」と言って入ってきます。この反応はとても動物園としては嬉しい限りです。そうした素直な感動を子どもたちに伝えられることが動物園の一つの役割だと思っています。でもその時、お父

さん、お母さん（おじいちゃん、おばあちゃん）今度は自分が飼育する側の視点でゾウの目を見てみてはいかがでしょうか。きっと違う見方ができるかもしれませんよ。

平成20年1月4日 園長 生江信孝



「ゾウと記念撮影」

2008年1月4日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)

[平成29年](#)